月刊「神戸っ子」昭和39年5月1日印刷通巻38号　昭和39年5月10日発行　毎月1回10日発行

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

5月号

monthly magazine kobekko may 1964 no, 38

Hino
高性能の日野
兵庫日野ヂーゼル株式会社
TEL ④ 7651
コンクリート・ルスイのご用命
神戸日野モーターへ
TEL ④ 5771～5

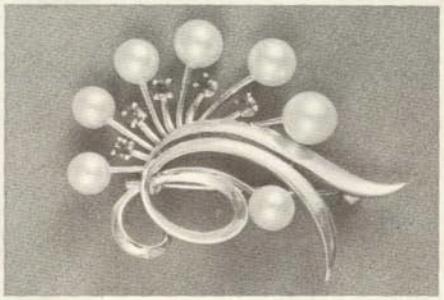
これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたのくらしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です

Mikimoto Pearls



永遠の気品、ミキモトパール
何代にもうけつがれて愛されている
輝き、みがきぬかれた細工技術と、
香り高い芸術性は、海外でも高く評
価されています。ミキモトは権威と
信望を集めた世界の宝石店です。

御木本真珠店

神戸店－三宮・神戸国際会館Tel.22-62
大阪店－堂島・新大ビルTel.361－0220

われら
神戸っ子

5

前島晶子

大丸神戸店勤務
（東京オリンピック記念百円銀貨公募図案入選者）

ボールが手から離れる一瞬、前島さんの瞳がキラリと光る。ボーリング場いっぱいに若さがあふれるようだ。

東京オリンピック記念百円銀貨のデザインに、全国から集まった三万五百十二点の作品の中から前島さんのものが選ばれた。大丸神戸店の紳士ハダ着売場に勤める二十才のお嬢さん、県立夢野台高校出身の生粋の神戸っ子である。「だれが見ても判りやすく、そして美しいデザインをと考えました……。百円銀貨が出来あがってくるのがとても楽しみなの」と待ちどおしそうに話される。

——三宮ボーリングセンターにて——

撮影／西村雅司

確信をもって
タジマの目が選んだ
世界の宝石の名品！

エメラルド／5月の誕生石

＊硬　度＊　7.5 －7.8
＊比　重＊　2.65－2.75
＊産　地＊
南米コロンビア共和国のアンデス山脈中とソ連のウラル山脈中に産出されます。
＊つたえ話＊
エメラルドの若芽のような清々しい翠緑の色は、視力の弱い眼を強め、眼の疲れを治すと古代の人々は信じていました。アレキサンダー大王やクレオパトラ女王も愛用していたと古文にあります。

Tajima
宝飾店 タジマ
元町2・TEL③0387・2552

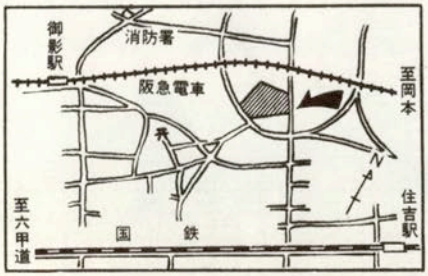
われら神戸っ子 6

善竹弥五郎

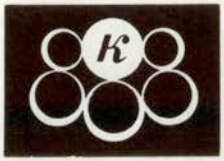
大蔵流狂言師
人間国宝

撮影／西村雅司

芸術院賞、人間国宝、朝日賞、それにこの度、神戸新聞社から受けた平和賞、このほか大阪で受けている賞は数知れない。しかし神戸での受賞は初めてだ。善竹弥五郎師は日本の舞台芸術家の第一人者、至宝なのだ。「神戸に来てもう60年になりますよ。神戸のためには随分つくしました。以前の知事の頃、学生、生徒に狂言を観せよといわれまして、一生懸命学校をまわり狂言をやりました」弥五郎師はなかなかの神戸通で、神戸っ子として今度の平和賞を心から喜ばれていた。



Kaneko Pearls



金子真珠

輸出専門の金子真珠の新社屋が六甲山麓の住宅地御影に竣工いたしました。絶対の信頼をいたゞいている金子の真珠を生産地から直接皆様にご販売出来ます　どうぞご遠慮なくお立寄下さい。

神戸市東灘区住吉町堂ノ本 1824
TEL (85) 2628・9422

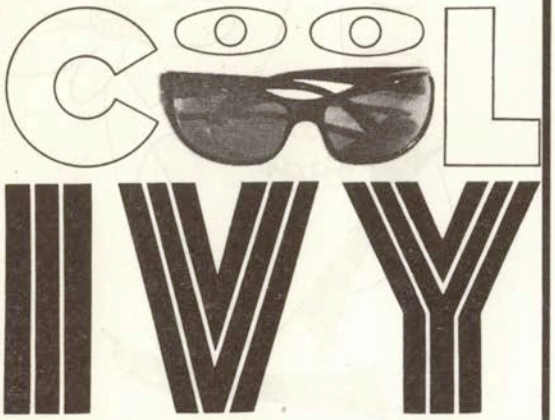
5月号目次

□ 1 SECOND COVER／絵・中西　勝
□ 3 グラビヤ／われら神戸っ子・カメラ　西村雅司
① 前島晶子　② 善竹弥五郎
□ 9 わたしの意見／細川隆一郎
□ 10 随想三題／旅への誘い・津高和一
ヨーロッパの旅―アテネの印象―・行吉哉女
40日間世界の旅・後藤末二
□ 14 **連載随想第21回／街頭寸感・白川　渥**
□ 16 **連載随想第9回／食うべし食らうべし・阪本　勝**
□ 21 神戸っ子放談／上田将雄
□ 24 経済ポケットジャーナル
□ 27 わたしは編集長(2)／宮崎辰雄
□ 32 **映画のこと手当り次第③／淀川長治**
□ 35 香港情報／小川丑郎
□ 37 季節のモード／夏の装い・福富芳美
□ 43 暮しのバラエティ No. 3／はさみいろいろ
□ 47 座談会／海外への旅　西脇　親・東　敬三・浅木トミ子
小出泰弘・西野　明・草部正造
□ 53 ピンクコーナー(T)
□ 56 神戸遊戯誌9／ビリヤード③・青木重雄
□ 58 神戸うまいもん巡礼 No. 21／赤尾兜子
□ 60 紳士入門⑮／勲章紳士・竹田洋太郎
□ 62 ポケットジャーナル
□ 64 KOBEKKO SHOPPING GUIDE
□ 70 **連載第13回／神戸夫人・武田繁太郎**
□ 76 グラビヤ／緑のなかの六甲山　カメラ・緒方しげを

表紙・小磯良平／カメラ・米田定蔵／デザイン・橘　正三

クール・アイビー!

夏をクールに
しかもアイビーに
すごす……



男の服飾

Mac マック

三宮本店　神戸センター街　TEL ㊴ 0895
トアロード店　センター街西口　TEL ㊴ 0896
新開地店　新開地本通り　TEL ⑤ 7688
姫路店　姫路駅デパート　TEL ㉓ 1261

Fachem's

ドイツ菓子

ピラミッド
ビスケット
各種ケーキ

ユーハイム

本店・三宮生田神社西隣
神戸そごう・神戸三越・国際名菓店

＊わたしの意見

楽しい世界に市民のみなさんをお誘いするための序曲

細川隆一郎
毎日新聞神戸支局長

この間、私はフトこんな夢をみた。

大手を振って闊歩する青年達、うまい空気を一杯吸い込んで胸をふくらませている乙女達、緑の六甲山で、また、白砂青松の須磨海岸で余生を楽しんでいる老人達、希望に燃えて黙々として仕事にはげんでいる勤め人達。住宅も、道路も、きれいにととのっている。ゴミひとつ溜っていない美しい川。勿論スモッグなどもありません。通勤時のラッシュなどは遠い昔の物語り、新鮮な魚に血のしたたるようなビフテキ、味と香りの灘の生一本、幸が一杯の神戸。みんなが、みんな感激している神戸、お互いに「幸福だな――」と語り合っている市民達、ゴミが溜れば係の人がすぐとんできてくれる。電車が混んで困るといえばすぐ電車をふやしてくれる。ガケ崩れがあぶないといえばすぐ安全にしてくれる。

どうしてこんなにみんなの願いがつぎつぎに実現するのかなと思ったら『市役所も区役所も、保健所も清掃事務所等々……どれもこれも二つか三つ以上あって、サービス・コンクールに熱中しているんですよ』とおしえられた。「サービス・コンクール!! これあるかな……」と感心したトタン、夢がさめてしまった。

夢にみたサービス・コンクールはどこへやら。私はやっぱり一つの市役所、一つの区役所etc……の神戸に住んでいた。明るく、美しい、楽しい市民生活を送るためには、市民の皆様にいろんな希望や、苦情やご意見があるでしょう。それを紙上に載せつつ、そして関係当局の方々と一緒になって、それらの問題をひとつひとつ解決していこう。こんな願いから毎日新聞神戸支局は〝みんなで・みんなの〟運動をはじめている。

いままで随分たくさんの事柄を解決してよろこばれています。「男を女に、女を男にして下さい」という以外の事は、なんでも私共の支局に寄せて頂きたいと思います。毎日新聞神戸支局が、今年のはじめから〝みんなで・みんなの〟というタイトルで記事を書いているのは、あの夢の世界にみなさんをお誘いするために、「少しでもお役に立てば……」といった願いからであります。

□随想三題□

旅への誘い

津高和一

旅は、白いキャンパスのようなものである。自在に、様々な構想が浮遊しては消え。一つの起点からの出発が、とてつもない独走となって、際限もなく曲折したりする。

先年の中南米旅行も、サンパウロ、ビエンナーレ出品がその誘因だったし。今度のヨーロッパ旅行も、ミラノの画廊の招待が最初のキッカケだった。

私の場合、仕事をやり始めると、いちぎたない執念にとりつかれて、果てはくたくたにやりきれなくなるまで続く。この阿呆らしい習性も、うまく調節がきかない。むしろ面白がったりする野次馬根性があるくらいだ。

そこで他動的ではあるが、先程の様な機会を有効にするということになる。

こんなことでもない限り、私は、なんとなく仕事し、なんとなく酒を呑み、このなんとなくの隣人とは、離れがたい状態にあるとも言えた。

これには一寸した決断がいる。旅費、ルス宅、会話、生理に附随する一切の問題等々の、解決ということであるが、およそ人生に解決なぞあり得ないということで解決する。

すべてブッツケ本番を身上としている私の旅行計画は、一夜にしてデッチあげられ、あまりチミツとは言えないままの状態でことを運ぶシカケが多い。

カット・津高和一

中南米旅行で鮮明な印象は、時間に対する待遇のことである。大切にすることの表現が、地球のウラとオモテで、これ程の相異を示した例は珍らしい。時間に追われていない生活なのである。だがそこにも時間はあるという事実の中で、人間達の営みが続けられている。現実意識の構成、これはもっと大切にしなければいけないものだと思った。

それと、映画「黒いオルフェ」の登場人物達が踊りまくるカーナバル。

この日の為に、黒人達は深夜までサンパウロの起伏の多い街区の底の遠近から、地熱の様なにぶいドラムの音を響かせて、サンバのリズムで募金に歩いていた。

先頭に空カンを持った少年か、老人か、見分けがつかないにぶい街灯の下を行き過ぎるのがホテルの窓から眺められた。

カーナバルの日、リオから、バイヤー洲のサルバドルまで空路約八時間、なる程地方都市ほど盛んなことは一目でわかる。

サルバドルの近代美術館で、マベ、マナブ氏との二人展の為だったが、いまもこの全市的な熱狂のカーナバルは残象となっている。

それにペルーのアンデス山中のクスコの街も忘れがたい。透明な空の青と褐色の山肌に、白い山容を示す遠望の万年雪等、海抜三五〇

○米のクスコの街頭ですれちがったインデオの一マツの哀感の尾を引く後姿とともに消えないものになっている。

このことからすると、今度のヨーロッパ旅行で廻った北イタリアからスイス等の風景は、整理がゆきとどいて後に何も残さない。

ユーゴスラビアとの国境の街トリエステが印象深い。港近くの安ホテルの壁に、無数の穴があったのまで覚えている。

一番長くいたパリの街も悪くない。それと言うのも人間臭を消そうとしないからだろう。

いや消そうなんて考えないでいるのに、自然に消えて行く無味カン燥の何処やらの国とは大ちがいというものである。

（画家・行動美術）

ヨーロッパの旅
―アテネの印象―

行吉　哉女

数年前の話になりますが、私がヨーロッパ旅行にまいりましたのは九ケ月の滞欧期間中、その八ケ月間をフランスで研究視察にあたったことでした。

一番印象深かったのはアテネを訪れた時のことです。この頃、日本は風薫るさわやかな季節でしたが、五月十一日夜、羽田から飛行機で飛び立ち、いよいよ西洋文化の源流の地アテネに着いたのが五月十三日の朝でした。すぐさまデラスホテルに落ち着いて、食事はアクロポール・パレスホテルで摂ることにしたのでした。

翌日朝、遊覧自動車に乗り込み、待ちに待ったアテネ市内の名所古蹟を見学して廻わりました。

考古学博物館、国立図書館、学術研究所、そして王宮、オリンピック演技場、ギリシャ神話の中で最高神であるゼウスの神殿、セントジョージ寺、僧院、キングス・ガアード等々、古代ギリシャ文化をしのぶよすがともなる多くの古蹟をたいへん感慨深く観察して廻りました。

ギリシャ文化の花はアテネを中心として咲き誇ったことはあまねく知られているところですし、古代ギリシャ人の理想とした世界は、彼岸にある浄土や天国ではなくて地上の都市国家だということですが、彼等は澄みわたる碧空、かがやき透る天日下で観想にすごす閑暇にも恵まれておりました。そこに知性と勇気をもって地上の万物を探究し、人間の幸福を地上の世界の調和の中に見い出そうと努力する方向が生れ、彼等は人間に与えられた現実を肯定し、宇宙と自然を合理的に調和されたものとみたのです。

それがやがてはヨーロッパ文化の基本的な特色ともなりました。目に見える形を尊とんだ彼等が、人間のからだに美を見い出し、造形美術に優れた才をあらわし、この地に産する良質の大理石を使ってすばらしい芸術作品をつくり出しました。また閑暇のある観想から哲学や科学の基礎が開拓されたともいえるでしょう。私はそのギリシャ古蹟を心をこめて眺めながら、古代ギリシャ文化の特色に思いをはせ、紀元前四、五世紀の昔をしのびました。

この日偶然にもホテルに近い日本公使館に半開の日の丸の国旗がかかげられているのをみつけました。それはエチオピア王子死去に対し弔意を表するためのものでした。こんなささやかな事実ですが、遠くアテネまで来て異郷の地で日の丸の旗を仰ぐ感懐は国内にいる時とは一種違ったものであることを感じました。

当時のアテネテ駐在公使藤建一氏にもお会いし、これらのことについても親しくお話しする機会にめぐまれました。異国で仰ぐ国旗に対する感情が格別であるだけでなく私らは祖国を離れて、より深く祖国を知るという感じを深めたことでした。

（神戸女子短期大学学長）

40日間世界の旅

後藤末二

昨秋の9月3日、40日間世界一周の旅へ羽田を飛び立った。

マニラ、バンコックを経由、真夜中にクエートを通って、カイロに着いた。エジプトでは、ピラミッドの雄大さに歴史の重厚さを想い、また、アテネ、ローマの史跡の数々に古代ローマに想いを馳せたのである。ミラノ、トリノから美しいスイスのジュネーブを訪れILOのヨーロッパでの雇用条件や職業教育の現情を見聞した。

ドイツではミュンヘン、フランクフルトのモーター場、またハイデルベルグ大学を廻ったが、西ドイツの復興ぶりはめざましいものがある。

5年前から西ドイツでは村長の立候補の公約に、田んぼのあぜ道の補装をうたい文句にしているそうだが、いかに道路が重要視されているかが伺がえる。補装をしていないところは道路とはいわないそうで、日本のように二〇〇mか三〇〇m行かぬ間に必ず下水工事か、道路工事で穴ぼこをあけてほじくっているのとは大違いだ。ローマでも千年前に下水道路が完成されているし、千年前に作られた橋は立派に遺っている。しかし40年前にムッソリーニが造った橋は最近補修されたそうで、政治家の力がなっていないと文句を言っていた。

西ドイツから、百米四方の真空地帯できびしい検査をうけて東ドイツに入る。——日本の終戦時を想い起こす風景である——自動車は10年前の車だけ、人間の血色は悪い。西ドイツと東ドイツを飛行機から眺めて「これだけは同じだな」と感嘆したのは緑なす樹々の美しさだった。自然の美のみは、政治、思想の対立を超越しているのである。花の都パリの空港で紙クズの散っているのを見て、気易さに気分がほっとした。又夕暮れどきの雑然としたパリの街なみはしっとりと心をやわらげてくれた。

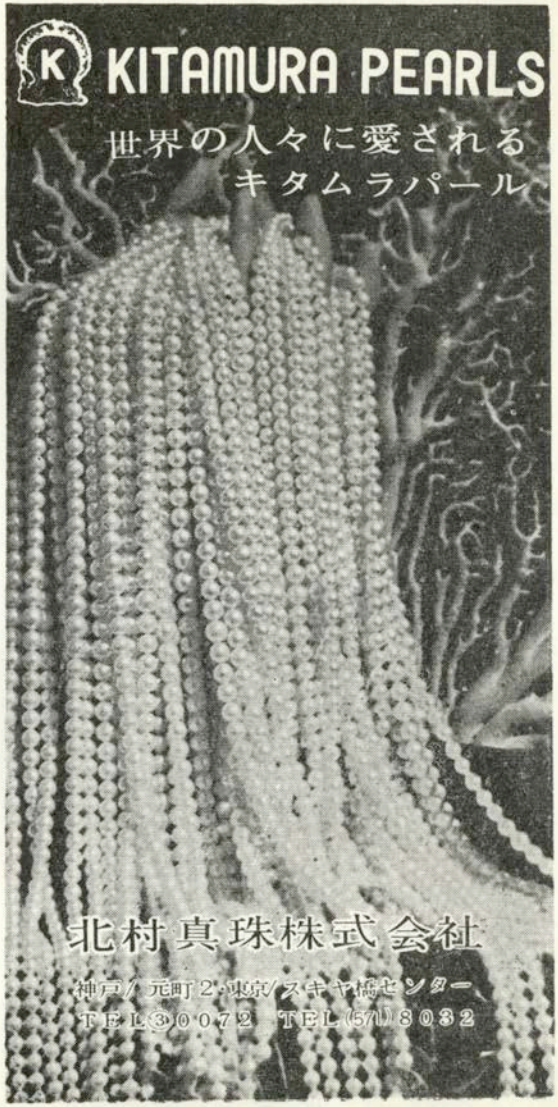
フランスのルノー工場を視察してロンドンへ向い、アムステルダムからハーグへやって来て、EECの会議に出席したのである。

さらにアメリカへ渡って、ニューヨークのシティバンクを訪問。ハーバード大学で経営学のレクチャーを聞いたり、ワシントンではILO本部でアメリカの労働問題について学んだ。またデトロイトのフォード工場を見学、ロスアンゼルスに二日、トバクの町ラスベガスでベラホンテの5弗50セントのショーを楽しんだ。ロスアンゼルス、サンフランシスコ、ハワイを廻って10月12日に日本の土をふんだ。

この旅での私の焦点はなんといっても〝車〟〝道路〟交通問題〟だったが、自由化を迎えてますます自動車界の厳しさを感じている。また英国のバッキンガム宮殿に近い公園で、パンクズを手のひらにのせると雀がチュンチュン群って来た。日本の雀は私の肩にとまってはくれないが、英国の雀は肩にとまってくれたのである。小鳥や野兎、リス、鳩が、人間を信じて親しんでいるさまにさすが紳士の国と感慨が深かった。すべて交通安全の問題も、結局は人と人とのちょっとしたゆずり合いの心であり、また機械文明を信頼して行けるレベルにまで引きあげることではなかろうか。完全な信号機を作っておれば交通巡査はいらない。それを信じるマナーを自然に養いたいものである。

日本の雀が公園で肩にとまるようになってくれたら、雀でさえも文化国〝ニッポン〟と歌ってくれるだろう。（神戸日野モーター社長）

世界中の人からほめられた
日本の誇り　神戸のほまれ

マロングラッセはヒロタの銘菓

元町通三丁目　TEL③二三四〇番